
SA SU KE

エミリア

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

S A S U K E

【Nコード】

N 5 4 3 8 N

【作者名】

エミリア

【あらすじ】

代給品様リクエスト。PV40万突破企画、2人の転生者IFSストーリーです。

主人公はうちはサスケ。2人の転生者とは一部が全く異なるストーリー展開です。

追伸：タイトルが『S A S U K E』だとありきたりだと思って、星を入れてみました。（笑）

プロローグ

いきなりやけど俺は死んでもうた。そして、幽霊的存在になった俺はスプラッターとなった元・俺の身体を見下ろしとる。

「これはひどいな。吐けるものなら吐きたいけど、幽霊の俺には叶わんか……。ま、この愚痴にも突っ込みを入れる相方は居らんねんけどな……」

で、何で俺がこんなことになったかって言うと、久し振りに友人と会ってアニメイトやゲマズに行こうという話になり、目的地に向かって歩いていると、いきなり10tトラックが突っ込んできたんや。

その結果、俺の身体はグチャっとなってもうた。ちなみに友人の方は生きとる。トラックがぶつかる前に俺が思いつき蹴りをかまして、トラックの車体範囲外に飛ばしたからや。

それにしても……、これからどうすればいいんや？……はあ。

そんな感じで俺が黄昏とつたら、いつの間にか黒衣の外套を纏った4、5歳位の幼女がおって、俺のことを見とった。

しかも、幼女の頭にはF a t e / s t a y n i g h tの真アサシンが付けている髑髏の仮面がある。もしかして、この幼女が俺の水先案内人。または死神的存在か？

そんなことを思っとなら、幼女は俺の服を引っ張りだした。何や知らんけど、付いて来いって言うてるみたいや。

その場で呆けとっても意味ないんで、俺は幼女に付いて行つた。もし第三者に俺のことが見れとなら、変質者扱い確定やな。

そんなことを思いながら幼女に付いて行くと、俺はリアルな変質者、または未確認生命体と言つても過言ではない存在と遭遇した。

未確認生物の正体は、ボディビルダーの様なムキムキの体でポーシングしている爺だった。しかも、軽く日焼けをして、健康的な一面をあからさまにアピールしている。

余りに気持ち悪く、吐きたくても吐けへん為、俺は膝を付くことになった。俺がそんな状態なんも無視して、自分の筋肉を強調する様にポーシングを変えながら爺は話し始めた。

取り敢えず、爺の行動を無視しながら話を聞くと、どうやら爺は神様らしく、更に俺は本来死ぬべき存在やなかったらしい。

で、罪滅ぼしも兼ねて、現在の記憶を持ったまま、新しい人生を歩ませてくれるらしい。まあ、所謂転生らしいな。

「あゝ神さんや。俺の転生する先って、どこや？」

「NARUTOの世界じゃ」

よりによって、NARUTOかい!!!めっちゃ、死亡フラグ満載な

世界やんけ！！

「ちなみに憑依寄りの転生で、お主はうちはサスケになる」

「……おい。それは俺に全世界指名手配の犯罪者になれって言うてるんか！！」

神のキヤステイングに思わず俺は叫んだ。

「誰もそんなことは言うたらんわ。原作ブレイクでも何でも好きにしたらよい。」

あと殺してしまった俺びと友人を救った功績として、お前の望む能力などをできる限り叶えよう」

「……マジで？」

「マジじゃ」

……ひゃっほー！！最高だぜ、神！！今ならあんたの油ギツシュにテカってる腹筋にキスできるぜ！！

「んじゃ、遠慮なく言わせてもらっな！！」

「うむ。言ってみい」

「まず、めだかボックスに登場する黒神めだかの異常性・『完成』
や。
アフノーマル

当然、この異常性のコピー対象には『血継限界』が含まれる様にしてや。
アフノーマル

あと、俺の目に『写輪眼』以外に空の境界に登場する『直死の魔眼』

と『歪曲の魔眼』を追加してくれ」

「ふむ…、分かった。なんなら、めだかボックスに登場した全ての
アブノーマル マイナス異常性と過負荷を使えるようにしてやろう。

『写輪眼』については、『イザナギ』を使っても失明しない完全無
欠な『万華鏡写輪眼』を使えるようにしてやろう。

『魔眼』については使用時に眼か四肢に負荷の掛かるデメリットを
付けることになるが、いいかの？

勿論、負荷が掛かると言っても失明したり廃人になることは無いぞ。
精々、バカテスの坂本雄二が霧島翔子に眼潰しを食らう程度の痛み
か、吉井明久が島田美波に関節技を極められる程度の痛みじゃ」

「……両方とも尋常やない痛みやと思うけど……。ま、その位のデ
メリットは仕方ないか。

んじゃ、次の願いな。次は烈火の炎に出てくる『魔導具』を造れる
虚空の技術や。

あとは鋼の錬金術師の錬金術。できれば、真理達成バージョンと家
庭教師ヒットマンREBORNの？死ぬ気の炎？を使える様にして
くれ」

「了解じゃ。なんならオリジナルの『魔導具』も造れる様にしてや
ろう。

錬金術に関しても了解した。？死ぬ気の炎？に関しては7つの属性
を全て使えるようにしてやろう。ブラッド・オブ・ボンゴレの超直
感もな。

大サービスとしてお前が3、4歳になった時にリング一式と匣兵器
ボックスを呼び出せる『口寄せ』の巻物を送ってやろう」

マジですか！？神さん、あんた最高やわ。生まれ変わったら、忍
びやのうて、神父になるかも。（笑）

そんなことを思っていると、ただでさえチートスペックな俺に神は中

々に憎いことをしたくれた。

どうやら、全性質変化と原作54巻までに登場した忍術の知識、それを扱えるだけの才能を与えてくれた。正にプチ六道仙人や。

「もう、願いは無いかのう？無いなら転生させるが？」

神がそう言い出した。そう言えば、転生する前に確認したいことがあったんやった。

「最後に確認したいねんけど、ええか？」

「うむ。何じゃ？」

「いや、白の性別を確認したくつてな。男なん？それとも女なん？」

返答によって俺のモチベーションが変わる。

「ふむ。今から行くお主達の世界は、正確には原作のNARUTOの並行世界じゃからな。白の性別は女となつておる。」

マジですか！！？では、白嫁計画を発動させねば！！

「では、もう聞きたいことも無さそうじゃし、転生させるぞ」

神がそう言つと同時に、俺は強い光に飲み込まれた。

プロローグ（後書き）

……やってしまった。自重できなかった……。

サスケが『2人の転生者』に登場するサスケよりチートになってしまいました。

もう、誰も止めることのできないチート生物の誕生。ここまでくれば、もう尾獣とかいらない気がします。

つてか、このサスケは人柱力にはならないでしょう。

それでは軽く次回構想を簡単に話したいと思います……。

主人公が何もせずとも原作ブレイク。生きてる筈のない人が生存し、迫害される筈の子が普通の子になってます。

つてか、親の教育である意味天才になります。微妙に姿も変わってるかも知れません。

次回をお楽しみに！！

第一話

え〜と……。一度死んだ筈の俺は神さんのお陰で、どうやら無事（？）うちはサスケに転生できたようや。

何故転生できたかということが分かるかというと、目を開いて最初に視界に入って来たのが、うちはフガクとミコト、イタチの3人やったからや。

ぶっちゃけ、一番最初に見たんがフガクの濃い顔やったんが精神的にきつかった。

ちなみにこの世界がNARUTOの並行世界やってのは眼が開いた十数秒後にに痛感した。

俺の隣に誰か居るみたいなんで視線を向けると、そこにはもう1人赤ん坊が居ったんや。

名前はうちはミカゲ。オトンの会話から察するに俺の双子の妹らしい。まさか、サスケに双子の妹がおる世界があるとは思わなかった。

……そう言えば、俺の誕生日は7月23日で、ナルトの誕生日は10月10日やったっけ？九尾事件はまだ起きとらんって訳やな。

まあ、その内嫌でもナルトとも接触できる機会はあるやろつ。虐められとったりしたら助けて友達になる。

ま、それまで気長に修行でもしよかな。って訳で、こっからナルト

に会うまでの間に起こった出来事をダイジェストで送るわ。

まず、生後1カ月の俺。ハイハイで壁上りの業をしてみた。オトンらがイタチ兄を超える天才やと騒いだ。

生後2カ月過ぎた頃の俺。九尾事件は発生せず。一体マダラは何をやってるんやろうか？ま、そのお陰でうちは一族が里の隅に追いやられることは無くなった。

ちなみに俺は毎日オカンやイタチ兄にミカゲと抱っこされる日々を送った。

生後半年の俺。両足で立ち上がる。オトンがまるで“クララが立った”みたいな感じで“サスケが立った！！”と叫びよった。めっちゃ恥ずかしい。

丁度この頃、オトンが里の上役に選ばれた。九尾事件が発生してないんで四代目も健在って訳や。

クシナさんとオカンがアカデミー時代からの友達の様で、その関係から四代目とオトンは知り合って、交友関係が始まったらしい。ちなみにそのやり取りが始まったんは俺が生まれた後らしい。

で、今回の件は四代目が直々にオトンに頼んだようで、オトンは謙遜しながらも了承して里の上役になったらしい。ってか、俺がブレイクする前に既に壊れてるし……。

1歳の俺。割と弁舌家になり、？チャクラ？の制御の訓練を始める。この時、？死ぬ気の炎？の制御も始めようと思ったけど、どうせならリングとかが手に入ってからしようと思った。

2歳の俺。？チャクラ？の制御を完全にマスター。術の訓練を始めた。更に異常性アブノーマルと過負荷マイナスの訓練も開始。

試しに家族の前で日之影ひのかげ 空洞くうどうの異常性・『知られざる英雄』アブノーマルを使ったらマジで存在を忘れられた。

話し掛けても異常性発動中は全然気付いて貰えず、普通に泣きに入った。軽いトラウマや。

補足やけど、この時に初めて『写輪眼』を使った。ついでに鏡の前で『万華鏡写輪眼』に切り替えてから、黒神くろかみ 真黒まぐろの異常性・『解アナル析』ティカルを使ってみた。

こうすることで俺の『万華鏡写輪眼』の能力を解析できると思ったからや。案の定、簡単な解析はできた。

神の言ってた通り、完全無欠な『写輪眼』の形で、『万華鏡写輪眼』の瞳力を使ったとしても一切負荷が掛からんようや。

あと、通常の『万華鏡写輪眼』は1つの眼に1つの瞳力しか得られん様やけど、俺のは特別製の様で1つの眼に複数の瞳力があるようや。

ちなみに俺の『万華鏡写輪眼』の形状は暴走状態の『複写眼』アルファ・ステイグマと同じ形状やった。見た瞬間はビビったわ。

補足の補足、『万華鏡写輪眼』から『写輪眼』に戻した直後にオトンとオカン、イタチ兄に遭遇。『写輪眼』の存在がバレた。

その結果、歴代うちはで一番の天才だと言われた拳句、うちは一族で神童と呼ばれる様になった。

3歳の俺。神から送られてきた『口寄せ』の巻物によってトウリニセツテを始めとした複数のリングと匣兵器ボックスをゲット！！

あと、四代目一家&旧家の集いにミカゲと一緒にいて行くこととなり、四代目一家&旧家の原作キャラ達と遭遇することになった。

そして、この時にナルトらと接触することになったんやけど、ナルトを見た瞬間に俺は『万華鏡写輪眼』が暴走『複写眼』アルファ・ステイグマやったのを知った時と同じ位の衝撃を受けた。

なんと、ナルトの髪の色が金髪やなくてオレンジで、髪質がツンツンや無くてクシナさんみたいなサラサラヘアーやったんや。

もし、これで髪が赤かったら原作ナルトがクシナさんに会った時に言ってた自分の希望的イケメン（死語）像になってたやろう。

そう言えば、俺が3歳ってことはヒナタも3歳ってことになる。ってことは、ヒナタ誘拐事件が発生する年ってことになん。

なんやかんやで、俺はこの集いに来てたサクラを除く原作同期メンバーと遊び友達になった。

当然、ヒナタも遊び友達やねんけど、同じ『瞳術系血継限界』の持ち主やからか、一緒にいることが多くなった。

けど、恋愛対象とかにはなりそうにない。何故ならヒナタは集いの時にナルトに一目惚れしたみたいやからや。

俺は精々、仲のいい親戚程度の感覚やろうな。取り敢えず、集い以降は原作同期メンバーと遊びながら？死ぬ気の炎？の修行とかを始めた。

あつ！言い忘れてたけど、俺は日向宗家の当主・日向ヒアシに『白眼』を見せてもらった。で、異常性・『完成』ジ・エンドで強化複製した。

アブノーマル
異常性・『完成』ジ・エンドの能力は他者が十分に使える能力を複製し、十全として扱うもんや。

これで俺は『白眼』の能力を複製し、死角皆無な完成された『白眼』へと進化させ、身に付けた。

ちなみに俺の場合は『白眼』を使っても視神経は浮き上がりず、『写輪眼』に進化系『白眼』の能力が追加された感じや。

ついでに他の旧家の当主に秘伝忍術も見せてもらった。全員、酒が入っていたこともあって、簡単に暴露した。

これで判明したんやけど、異常性・『完成』ジ・エンドには『血継限界』アブノーマルだけでなく秘伝忍術も異常と認識される様で、強化複製ができた。

集いから2カ月。雲隠れの里との間で同盟条約が結ばれた。近々、ヒナタ誘拐未遂事件が発生する筈やから、警戒せなアカンな。

雲との同盟から数日後。雲隠れの忍頭がやって来た。どうやら今日が誘拐未遂事件の日のような。

元から原作なんて壊れとるけど、俺も自分の意思でもやってみたい

んで、昼間はヒナタを含む原作同期メンバーと遊びながら周辺を警戒し、夜は異常性・『知られざる英雄』^{アフノーマル ミスター・アンノウン}を使いながら日向宗家の邸宅を警護することにした。

そして、ある日の夜。屋敷の周辺を『写輪眼』で警戒しとつたら、雲の忍頭が本当に来よつた。ここで捕まえてもええねんけど、それやとシラを切られる可能性がある。

この場合、木ノ葉に有利な条約を追加させる為にも、ヒナタが誘拐された後に生け捕りした方がええ。その方が四代目や三代目の爺さんに貸しを作ることができるしな。

そういうことで、俺はヒナタを攫うまで雲の忍頭を黙認した。ちなみにこの時、異常性・『知られざる英雄』^{アフノーマル ミスター・アンノウン}を使いながら背後に移動し、『飛雷神の術』の術式を刻み込んだりした。

そして、忍頭がヒナタを抱えて出て来たのを確認すると、俺は『飛雷神の術』^{アフノーマル}を使って忍頭の背中に移動し、負ぶさると同時に異常性・『知られざる英雄』^{ミスター・アンノウン}を解いて話し掛けた。

「おっさん、日向家の長女を抱えて何処に行く気や？まさか、ロリコンで幼女誘拐か？」

「！！？」

いきなり背中から話し掛けたことで忍頭は立ち止まった。それと同時に俺は忍頭の背中を蹴って前に降り立った。そして

「！！？何者だ！！？」

忍頭が俺らに向かって叫んだ。極秘任務やねんから、大声とか出すなや。

「……何だ、ガキか。悪いが、見られた以上死んでもらう」

忍頭はヒナタを抱えたまま忍刀を手にして襲い掛かって来た。まあ、『写輪眼』を使える俺にとっても激遅の攻撃や。正に“スロー過ぎ”て欠伸が出るぜ”状態だ。

襲い掛かってくる忍頭に対して俺は高千穂たかちほ 仕種しぐさの異常性・『反射オトパイロット

神経』を使って攻撃を回避し、同時に抱えられていたヒナタを奪い返した。

「ずさんな持ち方やな？女はもっと大事な扱わなアカンで？」

「……！！？」

抱えてたはずのヒナタをいつの間にか奪われたことに気付いた忍頭は驚いて激しく動揺してた。

そんな忍頭に俺は容赦なく都城みやこのじょう 王土おうどの異常性・『人身支配アフノーマル』の真骨頂の1つ、『言葉の重み』を使う。

「ヒザマスケ
「跪け」

俺のその言葉に従って忍頭は跪いた。俺の言葉に逆らえない忍頭はだんだん顔を蒼くさせ、震え始めた。そんな忍頭に俺は最後の言葉を送る。

「眠れ」
ネムレ

その言葉と同時に忍頭は跪いたまま眠りに着いた。そして、俺は寝るとる忍頭を縄でふん縛る。

忍頭を縛り終えた頃合いに四代目とヒアシのおっさんが現れ、俺を見た瞬間驚いとった。ま、俺みたいなガキが忍頭をふん縛っとったら驚くわな。

事情を説明した。なんやかんやで、俺は日向の屋敷に行くこととなり、三代目の爺さんに説明することになった。

そして、雲の忍頭を生け捕りにした褒賞として、三代目と四代目から一度だけできる範囲内での願いを叶えて貰えることとなった。

俺は白と多由也、アマルを嫁にする為に旅に出る予定なので、その時に使おうと思う。こうして、三歳の頃の出来事は終了した。

4歳の俺。取り敢えず、他の漫画に登場する技を忍術で再現できんかを試すようになる。結果、大量のオリジナル忍術が誕生することになった。

あと報告することがあるとすれば、同期メンバーも加えてイタチ兄

と遊ぶようになったんと、手裏剣術の修行を始めた位か？

5歳の俺。手裏剣術より剣術の修行に重点を置く様になる。あと、原作同期メンバーとその家族から誕生日を祝われる。

ちなみに現在住んでいる家は明らかに原作で住んでいた家より広く、日向宗家邸宅並の広さはあると思う。

この時、四代目からワンピースに登場する大業物・『秋水』にそっくりチャクラ刀をプレゼントされた。

オカンとクシナさんを經由して俺が剣術に精を出していることを知ってプレゼントしてくれた様や。あとは実用性を重視した修行着や忍具なんかが他の人からプレゼントされた

ちなみに双子の妹のミカゲには髪飾りや綺麗な着物といった女の子らしいものがプレゼントされてた。

……なんか、ミカゲの方が鼻肩されてる様に感じるんは俺の気のせいかな？……あと、重要なイベントと言ったら、ヒナタに妹のハナビが生まれたことくらいかな？

原作ではうちは一族内でキナ臭い動きが起こり始める頃やけど、この世界ではそんなことは無い。平和な日々が続く。

6歳の俺。アカデミー忍者学校に入学前日。ミカゲと一緒にイタチ兄と手裏剣術の修行をした。

この時、イタチ兄は既に中忍で、俺は俺で『火遁』系の忍術で上忍級のもいくつか修得しとったりする。ミカゲは一般的なくの一候補

生より少し上くらいや。

修行を終えると3人で帰路についた。ちなみにこの時に木ノ葉警務部隊の話は一切上がらなかった。

今のうちには一族はオトンが上役になったことを皮切りに、暗部や下忍教育の担当上忍、スペシャリストの特別上忍に選ばれることが多くなった。

これによって木ノ葉警務部隊に付いてたうちは一族の家紋が取り外されることになったんや。

イタチ兄と同世代位から下の世代に掛けてが一斉に恥ずいと言ったんも原因の1つやろつ。

ちなみにクーデターが起こらんのので、イタチ兄の暗部入りも無かったりする。代わりに忍者学校で教師をせんかって誘いがあるらしい。

争い事が苦手なイタチ兄には暗部より忍者学校で教師をやってる方が似合うと思う。

入学式当日。入学式にはオトンとオカン、イタチ兄の全員がやってきた。ちなみに入学式だけなので授業はない。この後、俺は原作同期メンバーと一緒に修行をする予定や。

そして、俺は原作同期メンバーと演習場で修行を始める。今回の修行は？チャクラ？の扱いについてや。早めに『木登りの業』や『水面歩行の業』はやつとくべきやと思うしな。

で、修行の結果を10点満点で採点するなら、俺：10点。ヒナタ

&イノ&ミカゲ：9点。ナルト&シノ：7点。シカマル&チョウジ
5点。キバ：3点や。

キバが修行にし過ぎてバテしてしまったんで、今日は昼の2時位で解散することになった。

全員が解散した後、俺は1人演習場に残った。ミカゲも残ろうとしてたけど、適当な理由を付けて帰らせた。

残った理由はただ1つ。転生して初めて『魔眼』を使おうと思ったからや。これはある意味実験でもある。

取り敢えず、初使用やから木とかに向かって使うことにした。俺は近くにある木を向いて、眼に力を集中させた。

すると、木の枝がねじ曲がり、更に俺の視界に映る幹の部分に黒い線や点が現れた。おお！『歪曲の魔眼』と『直死の魔眼』の能力や！！そう思う間もなく俺は両眼と脚に激痛が走った。

「ぐおー！！眼が焼けるように痛い！！つか、この足の激痛は何なんだ四の字固め！！？」

神の言っていた通りバカテスの雄二と明久が翔子と美波から受ける目潰しと関節技の痛みが俺の体を襲った。

つか、雄二と明久はこんな激痛を日常茶飯事の様に受け取ったんか！？……あいつらは猛者や！！

第一話（後書き）

代給品様へ

3話あたりで2人の転生者と同じで旅に出る予定なんですが、サスケが旅に出てる間にうちは一族がマダラに襲われて、一部殺されるようにするのと、一切そんなこと無く平和に暮らしてるのだったらどっちがいいと思いますか？

ちなみに前者の場合はイタチとミカゲは生存しますが、フガクやミコトが殺されることになります。これによって、イタチとミカゲの『万華鏡写輪眼』フラグが立てれるようになりますが……、どうでしょう？

第二話

え、『魔眼』を使ったら眼と足に激痛が走ったうちはサスケや。取り敢えず、俺は眼と腕の痛みが引いた所でもう一度『歪曲の魔眼』だけを使用してみた。

すると、今度は左腕に関節を極められた様な激痛が走る。半端ない痛みには俺は悶絶。痛みが引いた所で状況を整理する。

どうやら神の言ってた通り、『直死の魔眼』を使うと目潰し、『歪曲の魔眼』を使った時は関節技を受けた様な激痛が走る様や。しかも、『歪曲の魔眼』の場合は痛む場所がランダム。

……取り敢えず、使う時はそれなりの覚悟をせなアカンな。あと、マジで命の危険にさらされる様な状況以外では使わんようにしよう。確認したいこともし終えた俺は家に帰ることにした。で、自宅に向かっている途中、俺は急に錬金術を使えることを思い出した。

が、今日は目潰しや関節技のダメージで疲れたし、確認は明日することにして、そのまま家に帰ることにした。

そして翌日。俺は前日と同じくサクラを除いた同期メンバーと修行そして、キバがバテた所で解散し、演習場に1人残って錬金術の確認をした。

俺の要望した通り、両手を合わせて地面に手を付けると、地面に円錐状の突起を大量に作り出すことができた。明日からは本格的に錬金術の訓練をしようと思った。

数か月後。アカデミー 忍者学校の上期も終了し、長期休暇に入った。ちなみに忍者学校での成績は全部1位。ってか、上期だけで卒業までに必要なカリキュラムの8割を修了した。

ちなみにミカゲはくの一教室で全成績1位や。けど、卒業には一般のアカデミー生と同じだけの時間が掛かりそうや。

取り敢えず、長期休暇に入ったこともあり、家族で過ごすことが増えた。特にミカゲはオカンからくの一に必要なことを積極的に教わり、オトンやイタチ兄からも忍術を教わる様になった。

原作ではこの時期はクーデター云々の準備とかでギスギスしてたけど、この世界ではそんなことは無く、平穏な日々が続いている。

こっから少しダイジェストに話を進める。長期休暇が始まってから2か月後、7歳になった俺は四代目と三代目の爺のいる火影の執務室に里の外に旅に出る許可を貰いに行った。

ちなみに三代目は四代目への仕事の引き継ぎや執務の仕方を教える為に執務室にすることが多い。

四代目と三代目の許可と許可証を書いて貰った後、俺は自宅に戻ってオトンらとイタチ兄に旅に出ることを告げた。

旅に出ることを知ったオトンらとイタチ兄は猛反対してきたけど、

俺も一步も引かず話は平行線を辿ることになった。

ま、猛反対された理由は旅に出る期間が4年間やからやろう。うちの家族は俺とミカゲを溺愛しとるからな。特にミカゲへの愛情の注ぎっぷりは半端や無い。

最終的には世界を見て、忍の在り方を考えたいと熱弁し、これからのことを俺なりに考えてるっぽく思わせることでOKが出た。

俺の熱弁を聞いたオトンは男泣きしながらOKを出したんで、それを見た俺はキヤラ崩壊してると思ったんは秘密や。

オカンとイタチ兄からは定期的に手紙を出すと、美味しそうなのがあつたら送って欲しいと言われた。この2人も大概キヤラ崩壊してる。

ま、そんなこんなで旅立つことが決定し、その日の内に荷物をまとめ、明け方に里を出ることになった。

ここから少し旅日記風のダイジェストで話を送ることに成るけど、気にせんといてな。っと、その前に俺の格好やスペックの説明をするな。

俺の現在の服装は伝勇伝のライナがフェリスと旅に出てた頃のもんやったりする。

何故にNARUTOの世界でそんな目立ちそうな格好してるかと言つと『万華鏡写輪眼』が暴走時ば『アルファ・ステイグマ複写眼』やから、この格好がいいと思つたんや。

俺は何事も形から入る主義なんや。ちなみに髪型はライナが牢屋から出た直後のロンモスタイルにしている。

分かん奴はアニメ版の伝説の勇者の伝説、第四話「ライナ・レポート」を見てくれ。You Tubeとかで見れる筈や。

ちなみにチャクラ量は現時点で最大値が三代目と同じ位ある。俺はまだ子供なんで成長の見込みありって所や。

さて、容姿・格好・スペックも分かった所で、旅日記を始めたいと思う。

旅日記1ページ目。里から出た俺は少し離れた所で『多重影分身の術』を使い、各国へと分散させる。ちなみに影分身の数は50体ほどに抑えた。

その理由は戦闘に支障が出んレベルがそれやからや。もっと多い方が忍術をより回収し易くなるんやろうけど、それで俺が死に掛けたりしたら本末転倒やからな。

旅日記2ページ目。里から出て1週間。オリジナル忍術の開発を開始！主に忍空や烈火の炎に登場する技を忍術で再現できんかを試みるようになる。

旅日記3ページ目。里から出て3週間。オリジナル忍術の開発を新たに作った『影分身』に丸投げて医療忍術の修行を始める。

知識はあるけど、繊細さが必要となるのでオリジナル忍術の開発より真剣に没頭する。

旅日記4ページ目。里から出て1カ月半。町や村に立ち寄る度に手紙や賞味期限が長持ちしそうな特産品を実家に送る様になった。

ちなみにそれらを購入・配達代は低レベルな賞金首を捕まえて手に入れた金で賄ってる。あと、この頃に俺の使用する異常性^{アブノーマル}に？チャクラ？とかが使用されないことが判明する。

旅日記5ページ目。里から出て3カ月。未だにアマルのいる筈の村が見つからない。火の国にあることは確かなんやけど…………。

これも火の国が広大過ぎるんが原因や！！取り敢えず、そんじよそこの忍の相手は異常性^{アブノーマル}や過負荷^{マイナス}でなんとかできそうなんで、各国に分散させる『影分身』の数を増やしてみた。

1日のチャクラ量は医療忍術に使う分だけ残して、残りは全て『影分身』として分散させる様になる。

旅日記6ページ目。里を出てから半年。医療忍術を完全にマスターした。意外と長い道のりやった。やっぱ知識だけでどうにかなる問題でもないな。

この時期に丁度、村に立ち寄ることになった。村の人の格好に見覚えがあるのは何故だろう？

………… あっ！！この村の人らの格好はアマルの住んでる村の人らの格好と同じや！！ってことは、ここがアマルの村ってことか！！？

今回は二重の意味で長い道のりやったんやな！？でも、ここがゴールやない。ここが真のスタートラインや！！

そう思いながら村を歩いていった俺は、ここで思わぬ出会いをする
ことになるんやった。

第二話（後書き）

S A S U K Eの主人公であるサスケは2人の転生者のサスケより少しだけ苦労人的な感じにしてみました。

では、三人娘の出会い編は次回に先延ばししたいと思います。お楽しみー！！

第三話（前書き）

こんばんは、エミリアです。

いつもながらダイジェストでお送りします。

今回は少しだけ差別っぽい表現があるかもしれませんが。

私的には差別しているつもりはありませんが、そう捉えることもできだと思います。

気分を悪くされる方も居られるかもしれないので、先に謝罪させて頂きます。

申し訳ありません！！

第三話

アマルの村と思わしき村に着いた俺は少しテンションを上げながら村の通りを歩いていると、エラいことが判明した。

現在、この村には疫病が蔓延してる様なんや。劇場版でアマルが掛かった難病みたいやねんけど、その詳細が驚くべきもんやったんや。

疫病の正体は宿主から？チャクラ？を強制的に吸収し、それを元に繁殖するナノサイズの毒蟲やったんや。

？チャクラ？ってのは精神エネルギーと身体エネルギーの融合したもんやから、一般人でも訓練次第では扱うことができる。

歌舞伎の家の子供やった自来也が三忍と呼ばれるレベルになれてるのがいい例やと思う。

で、このナノサイズの毒蟲やねんけど、？チャクラ？の扱いに慣れた忍にとっては何の脅威にもならんねんけど、そうでない一般人にとっては脅威そのものなんや。

何故、忍にとっては脅威ではないかと言うと、この毒蟲の？チャクラ？を吸収する総量はそう高くないんや。

つまり、吸収限界量を超える？チャクラ？を強制的に与えれば毒蟲は自滅するって訳や。忍にとってはその位のことは朝飯前や。

でも、一般人には？チャクラ？を練る技術が無いんで、毒蟲が自由

気ままに宿主に強制的に練らせた？チャクラ？を吸収し、繁殖。結果、宿主を死に至らしめるって訳や。

感染したら一般人の場合は1カ月ほどで死んでまうな。対処法は医療忍者に外部から？チャクラ？を流し込んでもらって毒蟲を駆除した後に医療忍術で毒抜きをしてもらうってのがある。

あとは蟲使いの油女一族の能力で毒蟲を支配下に置いて、毒蟲を出した後に毒抜きをする方法があるな。

あつ！この毒蟲は忍相手には効果が無いんで、一般人相手の暗殺ぐらいにしか使い道が無いと思われる。

ちなみに、この疫病の正体を何故に俺が知ってるかと言うと、疫病感染者を『万華鏡写輪眼』で見たからやったりする。

そう言えば、俺の『万華鏡写輪眼』の能力を言い忘れてた。形状が暴走『アルファ・ステイグマ複写眼』で、複数の能力があるってのは言ってたけど、詳細についてはまだやったな。

俺の『万華鏡写輪眼』の能力は『須佐能乎』と『イザナギ』を除外するとして、現時点で左に4つ、右に3つの合計で7つの能力が判明しとる。内3つの術は原作にも登場してない能力や。

原作で判明した術では右目に『天照』と『カグツチ加具土命』、左目に『月読』と『オモイカネ神威』がある。原作に登場してない術は右目が『アメノミヒツ思兼』と『天目一箇』で、左目が『カミムスビ神魂命』や。

ちなみに『天目一箇』の能力は伝勇伝の進化版『アルファ・ステイグマ複写眼』の生物や物体すら解析するもんや。これのせいで俺の持つ異常性・『アルファ・ステイグマ解析』

は意味を無くした。

『思兼』の能力はぶっちゃければ目からビームや。でも、ギャグ系の目からビームやない。新世紀エヴァンゲリオンに登場する使徒や覚醒初号機が放つビームで洒落にならん威力がある。

『神魂命』の能力は簡単に言うなら『A・T・フィールド』や。しかも、新劇場版の覚醒初号機並みの防御力があって、形状変化をさせることもできるみたいや。ただ、虚数空間を作ったり、精神汚染をするのに使うことはできんようや。

で、苦しんでる村人を無視するんも悪いんで、治療することにした。治療方法は異常性・^{アブノーマル}『完成』^{ジ・エンド}でパクった油女一族の能力を使った方や。

何故にそっちの方法を選んだかと言うと、木ノ葉に戻った時にこの毒蟲をシノへの土産にする為や。

最初は村人に疑われたけど、旅の医療忍者だと言って治療を開始すると、アッサリと疫病を治していったこともあって、あまり時を経ずに信用される様になった。

村にやって来て数週間後。俺は村に元からあった空き家を診療所に改造して医者として仕事をするようになった。

そして、ついにその時は来た！いつもの様に診療所で患者が来るのを待っていると、俺にとっての待ち人がやって来た。

疫病に感染したアマルが患者として運び込まれてきたんや。そこまでは予想の範囲内やったねんけど、予想外の人物とも遭遇すること

になった。

アマルを運んで来た人は白っぽい女の子とその母親っぽい人やったんや。まだ、決めつけられる要素は無かったねんけど、はつきり言っただけは動揺した。

取り敢えず、白っぽい娘のことは後でも聞けるんでアマルの治療を開始した。そして、数分後に治療を終了した俺はアマルを連れてきた2人に話を聞くことにした。

明らかにアマルと髪の色が違うので親子ではないだろうと思い、その点から話をする事になった。

結果論から話せば、アマルを連れてきたのは白と白の母親・雪さんだった。なんでも、2人は『血継限界』がバレて殺されそうになったので水の国から火の国に逃げてきたそうや。

で、偶々この村にやって来て、独りぼっちゃったアマルと一緒に暮らし始めたらしい。ちなみに2人が来たのは2年前やそうや。

雪さんの爺さん、つまりは白の曾爺さんひいじいに当たる人は水の国の暗部やったみたいで、雪さんはその爺さんから千本の扱いを習ってた様や。

俺が来るまではこの村で唯一の医者やったらしい。ま、医者と言っても針治療専門やったみたいやけどな。

で、2人の話を聞いた俺は1つの提案を試してみた。同じ医療に携わる立場でもある訳なんで、診療所を1つにして一緒に暮さんかって話や。

同年代の娘が居る母親としては拒否されるかとも思っただけど、雪さんはあっさりとOK出してくれた。これによって、俺と白、アマル、雪さんの共同生活が始まった。

アマルの村にやって来て1年後。俺は相変わらず町医者ならぬ村医者をやつとる。俺が院長で、雪さんが女医。白とアマルは看護婦や。ちなみにこの1年で雪さんと白、アマルに医療忍術を教えたりした。ま、診療所を維持するには当然の行動やな。

別に俺は未亡人好きやないで。俺の目的は飽く迄も白とアマルで、雪さんは範囲外や。ま、雪さんの見た目は某魔法少女に登場する悪魔の母親やKY執務官の母親並に若々しいけどな。

あっ！言い忘れてたけど、白の名字が分かった。白の名字は氷室ひむろというらしい。ちなみにアマルの名字も同じや。2人と暮らし始めてから同じ名字にしたそうや。

で、俺らがいつも通り診療所で働いてると、急患が運ばれてきた。既に疫病の感染が治まって8カ月以上が過ぎてるんで、“何事か！？”と言った感じになった。

そして、運ばれてきた患者を見て俺はこの村で白と出会った時と同じ位の衝撃を受けた。

運ばれて来たのは多由也やったんや。全身に擦過傷などがあつて、しかも衰弱しとる。

取り敢えず、今回も動揺しとる暇がないみたいなんで、いそいそと

多由也の治療をすることにした。

治療はその日の内に終了した。が、多由也はかなり衰弱していたので目覚めるまでに4日の時間を要した。

そして、ついに多由也が目覚めた。目覚めた直後はかなり混乱していたが、時間が経つにつれて落ち着き、傷だらけだった理由を話してくれた。

多由也の話ではどうやら両親は血の繋がった兄妹らしい。ま、一般的に近親相姦と言われるもんやな。

で、多由也の一族では近親相姦で生まれた子供は忌み子として扱われるらしい。倫理的に見ても近親相姦は不味いしな。

にしても、こう言ったら差別なんかも知れんけど、一般的に近親相姦で生まれた子は遺伝の関係で何かしらの障害を持って生まれる可能性が高いのに、多由也はそんな感じやないな。

ま、俺はそんなんで差別したりせんけどな。人間、中身が一番大切やろ。で、色々話を端折^{はし}るけど、多由也が氷室一家に加わることになった。

ちなみに多由也の名字は音^{おとかせ}？って言うらしい。音^{おとかせ}？多由也^{タユヤ}……、違和感はない名前やな。

こうして俺と氷室一家は多由也と言う新しい家族を得るんやった。ちなみに多由也の名前は音？のままやったりする。

多由也が村にやって来て1年後。俺は多由也にも医療忍術を教えた。

これによってうちの診療所は看板娘とも言つべき看護婦が3名いることになる。

これによってうちの診療所で働きたいと言う奴が続出。？チャクラ？の扱いを上手くできそうな奴を選別して、全員で医療忍者へと育てたりした。

これによって診療所を増築し、俺や雪さんの負担が軽くなった。ちなみに白らを目当てで医療忍者になった奴らは、よく白らに千本をブスリと刺されることが多い。

時間に余裕ができた俺は新しいことを始めた。それは『魔導具』の開発や。折角あるスキルやのに、今まで使ってなかったことを急に思い出したんや。

で、診療所のことを基本的に白らに任せて、俺は『魔導具』の開発を始めた。まずは烈火の炎に登場したもんから造ろう。

余裕ができたらオリジナルの『魔導具』も開発しようと思う。ま、そんな訳で俺は少しか村を離れて忍具に使われる特殊な鉱石発掘されると言う山へと向かった。

山は割と近場にあつたので2ヵ月ほどで村に戻ってこれた。俺が帰って来た時、白らが出迎えてくれたのは嬉しかった。

そして、帰って来た俺は診療所の隣に場違いな鍛冶屋造った。大工に頼んだら時間が掛かりそうなので、錬金術で造った。

俺が錬金術を使った時、雪さんと白らが凄く驚いて質問攻めされたけど、うまく誤魔化した。ってか、誤魔化せたい。

それから1年と3カ月後。俺はついに『魔導具』を完成させた。どれこれも原作烈火の炎通りの能力や！造るのに一番苦労したんは『風神』と『雷神』やな。

あつ！またまた言い忘れとったけど俺は虚空の作品だけじゃなくて海魔の作品も造れるスキルを持ってた様や。多分、神さんのサービスやろう。転生前に説明はされんかったけど……。

で、『魔導具』の完成からあまり時を置かず、俺の耳にある噂が入って来た。

うちは一族がとある任務でかなり殺されたと言う噂や。聞く限りでは霧隠れで2度目のクーデターがあつたらしく、木ノ葉に助けを求めてきたらしい。

ちなみに1度目のクーデターは再不斬のな。その話を聞いた時は“霧隠れにはプライドがないんか！！”とも思ってたけど、それ自身が畏やったみたいや。

オトンを始めとした大多数のうちはの上忍、中忍と他の対クーデター戦を想定した訓練をしとる特別上忍スペシャルリストの大部隊が霧隠れに向かったらしい。

けど、その途中で三尾の『尾獣』と化した霧隠れの水影・やぐらの襲撃を受けて部隊はオトンを含めて10人程残して全滅したらしい。恐らく、マダラが仕組んだことやろう。

部隊の構成メンバーが完全には分らんけど、もしかしたらイタチ兄も参加したかも知れん。そのことから、イタチ兄の安否を確認す

る為に俺は急遽、木ノ葉に帰郷することにした。

この時、なんやかんやで雪さんと白らは俺について来てくれることになった。俺への恩返しでもあるらしい。

そして、俺は診療所のことを残った医療忍者たちに託して、村を後にするんやった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5438n/>

SA SU KE

2011年7月31日18時39分発行